



戔は、戔^{サイ}で才と戈(ほこ)との形声字です。才は、“断ち切る”意味を依わした言葉です。従って戔も、“断ち切る”が本義の部首です。音は才(切)です。

裁は、衣類を作るべく、布を“断ち切る”のが本義の字です。「衣類の裁断」「裁縫(布を断ち、縫うこと)」がこれです。デザインから裁断までは、変更がききますが、一旦裁断してしまえば、変更はできなくなります。そこで“最終的な決着をつける”ことを「裁断」と言うようになりました。裁断(さばく)、決裁(とりきめる)、裁定などは、この意味のことばです。

栽は、木をりっぱに育てるべく、むだな枝を“断ち切る”のが本義の字です。転じて、“木を植える”意味にも使います。栽培。

哉は、国語の「何と楽しいことか」とか「行こうか」のように、文末にあって、詠嘆や疑問の気持を表わす終助詞で、サイというその語の音を表わす部首戔に、表意の口を加えて作った形声字です。哉の字形がここで“言葉(口)が断ち切れる”という意味を表わしています。

戴は、“別々になる”意味の異と戔との会意形声字で、“断ち切って

別々にする”ことから断ち切られたものが上へ上へと“つみ上げられる”意味を表わしています。また“上にのせる”ことから“いただく”「会長に 氏を推戴する」というようにも使います。音はサイ タイ ダイ。(s) (t)

載は、“上にのせる”意味の戴の省略した形の戔に車を加えて“車の上にのせる”ことを表わしたものです。今では、車に限らず、舟または書物にのせる場合にも使います。「積載(量)」「満載」「記載」「掲載」

截は、取った雀を焼き鳥にすべく、首を“断ち切る”ことを表わした字です。隹(鳥)と戔(切断)の会意字。音は、切る意味から「切」です。截断。直截。